

# (1) 研究課題名 自殺予防プロジェクト(代表 大山博史) 職域におけるうつ・自殺予防プログラムの開発

看護学科 千葉敦子

## 研究背景・目的

労働者のメンタルヘルス対策が重要な課題となっている。また、うつ病は自殺の重大な危険因子である。そこで、心の健康について理解ある職場風土の醸成をめざした効果的な健康教育のありかたの示唆を得るために、うつ病の健康教育を行い、受講者に対してアンケートを実施し、健康教育の満足度を調査するとともに、教育を構成する要素の何が、受講生の研究満足度に影響を与えているかを探ることを目的とした。

## 研究方法

社員数約750名の製造を主業務とする、壮年期男性の労働者が多いA企業において、うつ病の健康教育をほぼ同じ内容で4回実施した。健康教育終了後に満足度等に関する無記名自記式アンケートを実施し、CS(Customer Satisfaction)分析を行った。

## 研究成果

健康教育の参加による満足度が、「とても満足している」、「まあまあ満足している」が、あわせて8割を超えていることから受講者の満足度は高い健康教育であった。満足度に影響を及ぼす要因は、「重要度」と「有益度」であることが示された。また、改善を要する項目として「参加後の心の状態」が見出された。一般的に、満足度が高い健康教育は教育効果が高いことが知られている。心の健康について理解ある職場風土の醸成のために、より教育効果の高い健康教育を模索する必要があり、有用な成果が得られた。

グラフ1 うつ病の健康教育のCS分析データ

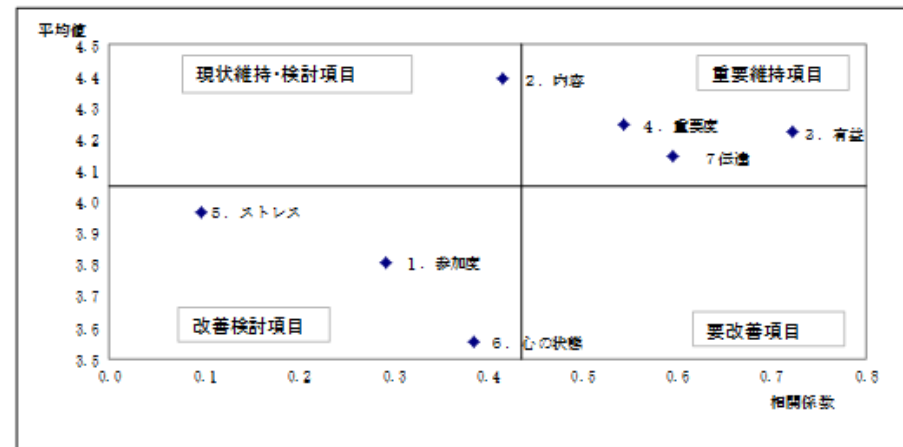


表1 うつ病の健康教育の評価項目改善度

項目	平均値	相関係数	改善度
6. 参加後の心の状態	3.55	0.3847	7.56
3. 内容が役に立つか	4.23	0.7230	3.85
7. 学んだ内容を他者に伝えたいか	4.15	0.5963	2.17
1. 研修会への参加度	3.81	0.2924	0.66
4. メンタルヘルスの講義をうけることの重要度	4.25	0.5440	-0.80
5. ストレスコントロールの必要性	3.97	0.0979	-7.03
2. 内容のわかりやすさ	4.39	0.4165	-7.05